



(シンポジウム「看護を実現する人間関係の成立と発展」)あなたの真摯な姿勢が患者の勇気となる

著者名	網倉 光太郎
雑誌名	東京女子医科大学看護学会誌
巻	13
号	1
ページ	64-64
発行年	2018-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032075

あなたの真摯な姿勢が患者の勇気となる

網倉 光太郎（NPO 法人 患者スピーカーバンク）

今から3年前の2014年秋に血液のがんの一種である悪性リンパ腫と診断され、化学療法と放射線治療を受け半年間の闘病生活の後に寛解となり現在は経過観察となっている。闘病中に落ち込むことも多かったが、様々な方から支援や励ましを得て現在に至っている。特に医療関係者の方からは大きなプラスの影響を受けたが、そのことを思い出してみると皆さんに一貫していることがある。それは「患者への真摯な姿勢」だった。この講演ではこのことに焦点を当ててエピソードを交えてお話しさせて顶きたい。

悪性リンパ腫と診断された直後は知識のなさから不安に苛まれインターネットで情報検索に没頭したが、実際は病気を受け止められずにそれを否定する何かを探していたと思う。かなりの時間をかけた挙句に結果的には極論じみた悪い情報ばかりに目が行く様になり、精神的に落ち込んだ状態に陥ってしまった。その様な時に病気と向き合う勇気を与えてくれたのは担当医師だった。病気の内容から治療方針を丁寧に説明し、質問には患者の不安を理解した上で分かりやすくイラストも用いて答え、その不安を少しでも取り除こうとする姿勢が垣間見られて信頼感が湧いた。更に不安に思っていた抗がん剤使用時に起こる副作用についても看護師からそれらを和らげる方法があり積極的対応していくとの具体的な励ましがあり、医師と看護師を信頼してこれから闘病して行こうという気持ちに変わっていった。

入院中の担当看護師からも勇気もらった。苦手な検査を受ける必要があることが分かりとても不安になっていたが、その看護師はただ頑張れ、みんなやっています等々の普通の励ましではなく、私との何気ない会話から不安点を理解し安心につながる情報を提供してくれた。これが私にとっての何よりの励みとなり、お陰で落ち着いて検査に臨むことが出来た。

看護実習で来ていた看護学生とのやり取りでもプラスの気付きもらった。不安の多い入院生活の中で自分のことだけで精一杯、実習の手伝いなど余裕なんてないと初めは思っていたが、実際に接してみて看護学生とは思えないプロ意識や色々と学ぼうとする積極的な態度の中で患者に対する不安を少しでも取り除こうとする真摯な姿勢が垣間見て取れ、自分も後ろ向きに考えているばかりではなく、現実を直視して今後のことを考えなければならぬと気付かされた。

私の闘病では医療・看護に携わる方の真摯な姿勢から勇気を頂き大きな励みとなった。この体験が皆様と少しでも共有でき今後の参考になれば幸いである。